

日本獣医生命科学大学
同窓会報

第53号

平成30年7月10日発行
日本獣医生命科学大学
同窓会
東京都武蔵野市
境南町1-7-1
発行者 中條 眞二郎
直通電話・FAX
0422-33-2916
E-mail dosokai@nvlu.ac.jp
URL http://nvlu-dosokai.
academic-sol.com/

母校百四十周年
記念事業準備の年

日本獣医生命科学大学同窓会会長

中條 眞二郎



各地で異常気象が報告されておりますが、同窓生各位におかれましては健やかにご活躍のことと拝察申し上げます。

このたびの大阪地震で被害を蒙りました同窓生に心よりお見舞い申し上げます。

会報の挨拶のたびに、自然災害のお見舞いとなりますが「地震・雷・火事親父」の格言の通り、地震が一番怖い災害となっています。神戸大震災、東日本大震災と津波、九州熊本震災の恐怖が収まらない内に大阪が地震に見舞われました。日本の北から南まで地震から逃れる安全な地域はありません。災害の都度

同窓生の被害者が必ずおられ、只お見舞い申し上げますのしかありません。

日本は、春夏秋冬を楽しみ、季節を肌で感じながら日々を送るものと思っております。桜の頃は花冷えが当たり前でしたが、今年は30度近い夏日の気候と気象庁始まって以来の豪雨がありました。春の新学期早々、クラブ活動で学童が熱中症になったニュースが流れ驚きました。

同窓会では今年度から、新会則により運営されております。法律や条令ですと生活に直結しますので一読しますが、同窓会会則は日常生活に関係がありませんので、多くの会員の皆様には関心がなく読んで貰えないと思っています。同窓会は、会員皆様の相互の親睦を目的とした会ですから、旧会則の目的と変わりはありません。

改正に当たっては、同窓会も時代に則した柔軟な思考で将来を見据え、会員一人々の熱い支援・協力が得られる組織作りを一番に考えました。会の円滑な運営は、四学科の同窓生代表による意見を持ち寄り、同窓会活動に反映実行されることを第一義として改正しました。四学科平等な役員数の割り振りが理想ですが、現状を遵守する緩やかな改正が混乱を招くことなく移行できるとの判断もありました。

同窓会は、会員の会費に依存し運営することから、支部の正会員会費納入者数を無視する分けにはいきません。「会費納入者」が会に対する貢献度とする基本的な考えで、会費納入支部会員数が代議員を選ぶ根拠となっています。支部会の発展が同窓会全体の発展につながります。全学科の同窓生が支部に所属して支部強化を図り、支部から特定学科に偏らない代議員が選出されることが望ましく、それを期待するところです。

次に課題となるのは、入学学生を構成する男女比がこの十数年変わりなく、女子学生数が男子学生数を上回る比率で推移しております。同窓生の男女比も女性が増加するのは間もなく到来します。女性の同窓会運営参加が当然の時代となっています。参考に本年四月入学生の男女比は、獣医学科女性66%男性34%、獣医保健看護学科女性91%男性9%、動物科学科女性61%男性39%、食品科学科女性38%男性62%となっております。今後の同窓会運営に女性の積極的な参加を急がなければならぬと思います。

開校以来節目となる記念事業は、「百三十周年記念誌」を開いて過去の事業をみると、十年を節目にして行われています。古い記録では昭和五年に日本獣医学校創立二十周年の祝賀会開催の写真が掲載されています。その後第一次大戦、第二次大戦と軍事色の強い時代から戦後は専門学校から大学への昇格と、経済的に余裕がなく当該事業の記録は、昭和三十六年に八十周年を学生参加のもと椿山荘で行っています。昭和四十六年の九十周年は、学校法人日本医科大学主導の式典・祝賀会で、多摩ニュータウンに大学移転が計画され同窓会は

図書館建設を記念事業としましたが、多摩移転が頓挫し事業は宙に浮いてしまいました。大学移転が二転三転するなか、昭和四十六年の百周年を迎えた記念事業は記念館施設の寄贈が計画されました。平成三年の百十周年には、学園紛争時に紛失した校旗が寄贈されました。平成十三年の百二十周年では、百周年事業から母校施設の充実に寄付を募ってきた計画を動物医療センター建設（現C棟）に向けての募金活動に転換し、六億円余の募金でありました。百二十五周年記念に教育棟・図書館・体育館（現A、B棟）の建設への募金活動が行われました。平成二十三年の百三十周年は、常陸宮殿下・妃殿下をお迎えして、盛会裏に式典・祝賀会が開催されました。九十歳代から三十歳代の同窓生が参加し、思い出に残る節目の式典・祝賀会となりました。記念事業は合同教育棟建設（現E棟）への募金活動を始め、母校発祥の地である護国寺境内に私立獣医学校発祥の記念碑建設と創立百三十周年記念特集号の会誌発刊がされました。いずれの事業も同窓会が常に大学と苦楽を共にした歴史であります。百四十周年の節目になる記念の式典と祝賀会も歴史に刻まれます。会員皆様と共に十年を振り返り、次の百五十周年に更なる発展を目指す起爆剤になる記念祝賀会としたいと願っています。関係各位と会員のご理解と支援・協力を宜しくお願い致します。同窓会事務所は母校本館正面玄関を入って右奥に地震対策を施した室が設けられました。大学キャンパスを訪れる同窓の来校者が多数いることを聞きますが、同窓会事務室にもお気軽にお立ち寄り下さい。お待ちしております。

事務局だより

同窓会事務局の受付時間

事務局の受付は、原則として月・火・木・金（祝祭日を除く）の午前11時から午後4時まで事務職員・堀内が対応いたします。一人で対応しているため、校内、銀行、郵便局などへ出向する時、席をはずして対応できない場合があります。何かとご不便をおかけしますがご了承ください。連絡は本会報第一面左上に記載してあります電話、ファクシミリ、電子メール、郵便等にてお願いします。外出時、休日など直接連絡が取れない場合は、後程こちらから連絡を致しますので、お名前、所属、電話番号、用件を簡単に留守電などに残して下さい。なお、各種届出・連絡、依頼等は依頼人が確認できる方法にてお願いします。

本年度より同窓会会則が改正されました

新会則・規程の小冊子を同窓会役員、支部長、代議員宛に送付いたしました。7月に開催される同窓会代議員会の代議員選出数など昨年とは異なっております。同窓会会則は本会報52号に転載し、同窓会ホームページにも掲載しています。規格化された提出書類はホームページから印刷してご使用下さい。

住所変更は速やかに届出を

53号会報は、本部事務局に登録されている住所へ直接お送りいたしました。移転先不明

で戻ってきた住所は削除されます。本会報が届かなかった方は住所登録が必要となります。住居移転などで住所変更された場合速やかに本部事務局までお届け下さい。移転後に入居された方に御迷惑をかける事例が多く見られます。

今年度は同窓会会員名簿の発行年度です

今年度は4年毎の会員名簿発行の年度となります。今回から個人情報保護の観点から記載情報を制限し氏名と住所のみに計画しております。名簿の配布は、全会員へ送付しておりますが、今回は本会役員、支部長、会費納入正会員の希望者のみに配布予定です。名簿発行の詳細は今年度の代議員会で決定されます。

会報へ投稿のお願い

支部総会、地区連合会、同期会、研究室OB会、クラブOB会等の開催報告（ワードで2000字程度）と電子写真（JPEG）を添付してメールにて本部事務局へお送りください。同期会OB会は到着順、初投稿を優先して会報とホームページに掲載します。なお、掲載スペースの関係で編集させて頂く場合や非掲載の場合があります、あらかじめ御了承ください。プリント写真での投稿は画質が不鮮明になりますのでご遠慮ください。

本部から支部総会への派遣人依頼について

支部総会への派遣は原則一名となっております。派遣する人選は依頼を受けた順に事務

局・本部役員で調整を行います。支部から派遣希望者への直接交渉はトラブルの原因となりますので、規定の旅費等が支給できない場合がありますのでご注意ください。

母校展示館への寄贈の御願い

母校附属ワイルドライフミュージアム（展示場）に母校の歴史（目黒時代の教科書、卒業証書など）、獣医学、畜産学、食品科学等の資料、器具類などに関連した物をお持ちで、博物館に提供して頂ける方のご協力を御願います。事務局までご一報をお願い致します。

同窓会会費納入のお願い

本会の事業は、会員の会費納入によって運営されています。会費は支部経由で一括納入が原則ですが、やむなく個人で納入する場合には、振込票にお忘れなく住所・氏名を記載し、通信欄に卒業学科・期（本会報送付封筒の住所ラベルの区分記号）を記載してください。住所が変更された方は変更ありに○印をお願いします、当方にて届出住所録の変更をいたします。

同窓会会費一括納入支部へお願い

年会費を一括納入された支部は、納入者名簿を事務局へお忘れなくお送りください。提出が無い場合、会費未納会員としての扱いになりますのでご注意ください。氏名（旧姓）には区分をお忘れなく記載するようお願いいたします。なお、所属会員の名簿に変更があった場

合には住所変更届けもお願いします。

母校付属動物病院との連携動物病院の申請

平成25年11月に発足した連携動物病院制度ですが、動物病院を開業されている正会員は申請することができます。連携を希望される方の手続きは、同窓会本部事務局が窓口となっております。なお、制度の詳細については同窓会ホームページをご覧ください。

次に該当する会員は事務局までご連絡ください

国会議員、都道府県知事・議員、市長村長、市町村議会等へ選出、再選された方。叙勲を受賞された方。他大学で博士号を取得された方。逝去された会員等。

年を元号から西暦へ表記変更いたします

現在、同窓会では原則として元号を使用しておりますが、順次西暦年に表記変更いたします。それに伴い年度は西暦下二桁で表示いたします（2018年度は18年度）。元号表記を併用する場合はカッコ内に（平成30年度）として記載いたします。

同窓会関係情報

○ 訃報

（本部に届け出のみを記載）

平尾 勝行氏 香川県支部長（大学獣医10期）
平成30年6月22日

今年も母校大学祭にブース開設

母校大学祭期間中の11月3日(祝)・4日(日)午前11時から午後3時まで同窓会ブースを母校本館一階同窓会会議室に開設いたします。平成26年に初めてブースを設け、今年で5回目となり年々認知度が上昇してきました。今年も同窓会の紹介資料などを展示して、飲み物、スナックをご用意して役員が皆様方のご来場をお待ちしております。休憩や待ち合わせ場所としてご利用ください。

平成30年度同窓会代議員会開催決定

来る平成7月21日(土)、午後1時より母校において学校法人日本医科大学坂本理事長、母校阿久澤学長のご臨席をいただき開催が決定いたしました。すでに理事、代議員、監事の方には開催案内と議案書を送付しております。当日は代議員会に先立ち午前10時より理事・監事会も開催されます。代議員会での承認事項は次号会報にてお知らせいたします。

学校法人日本医科大学広報をお届け

前回の本会報52号に、学校法人日本医科大学広報526号を同封いたしました。今回は4月に発行されました「日獣大特集」527号を同封致します。この大学報の同窓会会員への配布は、学校法人日本医科大学坂本理事長のご好意により提供を受けております。母校の現在の情報が盛り沢山です。

池本名誉学長の叙勲祝賀会が開催された

会報52号に掲載した池本名誉教授の瑞宝章の受章を記念して祝賀会が開催されました。母校阿久澤学長、中條同窓会会長など6名の発起人により準備され、平成30年2月17日(土)、午後1時より京王プラザホテル・コンコードBにて開催されました。当日は、池本先生と親交のあった母校、日本医科大学、同窓会、獣医師会、自治医科大学、専修大学、科学捜査研究所、他大学関係者160余名が参加し盛大な祝宴であった。関連記事は同封の学校法人日本医科大学広報527号17ページにも掲載されています。

編集後記

早くも梅雨明け宣言ができました。担当教職員に毎回執筆をお願いしています。多忙の時期、ありがとうございます。代議員会出席者は真夏日対策と水分補給に十分注意してお出かけ下さい。事務局

同窓会近況

広島県支部報告

支部長 高田 三千人
広島県支部では、平成29年12月10日に「ひろしま国際ホテル」において平成29年度支部総会を開催しました。

総会開催にあたっては、ご多用中のところ、本部から中條同窓会会長のご臨席を賜り、同窓会本部の活動及び母校の近況について情報提供等をいただき、誠にありがとうございました。

佐賀県支部報告

佐賀県支部総会を、平成29年12月3日(日)に佐賀市「四季彩ホテル」にて開催しました。当日は、御多忙中にもかかわらず中條同窓会会長にご出席をいただき誠にありがとうございました。本校の近況を知ることができ、総会も盛会となり出席者一同大変喜んでおりました。

大分県支部報告

秦 俊郎
平成30年2月10日の支部総会には、中條同窓会会長をはじめ57名の参加をいただき盛会に開催することができました。



広島県支部



佐賀県支部



大分県支部

20 年以上続く九期卒業生同期会

八木 達彌

恒例の大学同期会を今年も10月11、12の両日熱海で開催した。奥様同伴を含めて25名が参加し懇親を深めた。来年は函館で決まった。

20年以上に亘り毎年途切れることなく、全国各地で開催されている同期会は珍しいのではないだろうか。長続きの理由は、北は北海道、東北から南は種子島まで同期生が各地方にいて幹事を引き受けてくれること、そして何よりも健康と友情の賜物だ。80歳を超えて、東京だけの開催をとの意見もあるが、今後も出来る限り続けようとの皆の強い意向である。



母校近況

教員人事

(平成29年6月3日から平成30年6月15日まで)

○新任(平成29年10月1日付)

教授

戸塚 護(食品機能化学)

○新任(平成29年11月1日付)

講師

大塚 裕忠(基礎獣医学部門形態機能学分野)

○新任(平成30年4月1日付)

助教

神田 秀憲(基礎獣医学部門形態機能学分野)

助教

町田 雪乃(病態獣医学部門病態解析学分野)

助教

寫本 樹(獣医保健看護学応用部門)

助教

生野 佐織(獣医保健看護学応用部門)

助教

倉岡 睦季(実験動物学)

助手

濱本 裕仁(付属動物医療センター)

助手

鈴木 亮平(付属動物医療センター)

助手

吉田 佳倫(付属動物医療センター)

○雇用(平成30年4月1日付)

准教授(嘱託)

對馬 宣道(動物生理制御学)

○委嘱(平成30年4月1日付)

顧問

梶ヶ谷 博(付属ワイルドライフ・ミュージアム)

○昇任(平成29年10月1日付)

講師

吉村 久志(獣医保健看護学応用部門)

○昇任(平成30年4月1日付)

教授

金田 剛治(基礎獣医学部門形態機能学分野)

教授

吉田 達行(動物遺伝育種学)

教授

古田 洋樹(動物遺伝育種学)

教授

藤平 篤志(実験動物学)

教授

小竹 佐知子(食品工学)

准教授

水谷 尚(臨床獣医学部門治療学分野Ⅱ)

講師

田島 剛(基礎獣医学部門形態機能学分野)

講師

吉川 悠子(疾病予防獣医学部門衛生・公衆衛生学分野)

講師

知久 和寛(食品安全学)

講師

安田 暁子(付属動物医療センター)

助教

久保 喜明(付属動物医療センター)

○退職(平成29年7月31日付)

助教(嘱託)

對馬 宣道(動物生理制御学)

岡田ゆう紀(獣医学総合教育部門獣医学教育推進室)

○退職(平成29年9月30日付)

講師

小林 淳(獣医保健看護学応用部門)

○任期満了(平成29年11月30日付)

特任教授

清水 一政(獣医学部)

○退職(平成30年3月31日付)

教授

中山 勉(農産食品学)

特任教授

山田 裕(獣医学部)

助教

澤田 治美(付属動物医療センター)

○定年退職(平成30年3月31日付)

教授

尼崎 肇(基礎獣医学部門形態機能学分野)

教授

高橋 公正(病態獣医学部門病態解析学分野)

教授

梶ヶ谷 博(獣医保健看護学応用部門)

教授

天尾 弘実(実験動物学)

准教授

對馬 宣道(動物生理制御学)

○名誉教授の称号授与(平成30年4月1日付)

前日本獣医生命科学大学 教授

尼崎 肇

前日本獣医生命科学大学 教授
高橋 公正
前日本獣医生命科学大学 教授
梶ヶ谷 博
前日本獣医生命科学大学 教授
天尾 弘実

平成29年度
梅野信吉賞受章者決定

選考委員長 近江 俊徳

平成29年度梅野信吉賞には5名の応募があり、当該委員会にて厳正に審査された。その結果、獣医学科獣医内科学の手嶋 隆洋講師及び獣医保健看護学科獣医保健看護学臨床部門の百田 豊准教授の両名を梅野信吉賞受賞者とすることに決定致された。

手嶋講師は、平成17年3月本学獣医学科卒業後、本学大学院に進学し博士（獣医学）の学位を取得しました。本学大学院特別研究生、動物病院の勤務などを経て、平成23年4月より獣医内科学研究室の助教として着任し、平成27年4月講師に昇進しました。平成25年5月から平成26年6月までテキサス大学へ留学するなど、教育、研究、臨床といずれも精力的に活動しています。

受賞研究課題は「犬の肝疾患に対する脂肪由来間葉系幹細胞を用いた幹細胞療法に関する研究」です。免疫抑制作用や抗炎症作用をもつ脂肪由来間葉系幹細胞(Adipose Tissue-derived Mesenchymal Stem Cell: AT-MSC)を用いた幹細胞療法に着目し、AT-MSCを用いた幹細胞療法が、肝臓に限らず他の炎症性

疾患においても有用性が期待できることなどを明らかにしました。当該研究成果はStem Cells Internationalなど多数の国際誌に掲載されています。

百田准教授は、平成7年3月大阪大学経済学部卒業、平成13年3月東京農工大学農学部獣医学科卒業後、岐阜大学大学院博士課程（獣医学）に進学、平成17年3月博士（獣医学）の学位を取得しました。平成17年4月東京農工大学農学部附属家畜病院研修医、平成17年7月岩手大学農学部獣医学科小動物内科学助手、助教を経て、平成20年7月本学獣医保健看護学科助教として着任された。平成25年4月同講師、平成27年4月准教授に昇進しました。

受賞研究課題は「犬と猫の皮膚バリア機能研究と動物看護への応用」です。外界からの異物の侵入や攻撃から体を守り、体内からは水分が蒸散するのを防ぐという皮膚バリア機能が障害された犬や猫の慢性増殖性皮膚炎に対する新しい治療の開発に向け獣医皮膚科学及び動物看護の視点から取り組んだ研究であり、皮膚バリア機能を評価し計測方法の標準化や計測機器の適性などを明らかにしました。また、新規治療法「MMD療法」を開発し、重症度スコア（CADESIスコア）やVAS痒みスコアで標準的な治療と比較しながら皮膚バリア異常の観点で治療成果を明らかにしました。成果はVeterinary Dermatologyなど多数の国際誌に掲載されています。

平成29年度梅野信吉賞授与式は平成30年4月4日学長室にて挙行され、阿久澤良造学長より手嶋講師と百田准教授に賞状及び副賞（同窓会より）が贈られました。

平成29年度 獣医師国家試験について

獣医学科長 小山秀一

第69回獣医師国家試験は、平成30年2月14日（水）、15日（木）に実施され、その合否結果が3月9日（金）に公表された。受験者総数は1,277人（新卒966人）であり、合格者は全体で1,128人（新卒者936人）であった。合格率で見ると全体では88.3%であり、新卒者は96.9%、既卒者は62.2%であった。昨年度の合格率は、全体で77.2%、新卒者87.5%、既卒者38.0%であり、昨年と比較すると全体と新卒者で10%近い上昇であり、既卒者に至っては約24%の上昇であった。

大学別の合格者数および合格率は表の通りであった。本学は、6年次在籍者全員が受験し93人中92人（98.9%）が合格し、合格率

で見ると全国16大学中4位、私立5大学では1位の成績であった。なお、既卒者は26人受験し15人（57.7%）の合格であった。全国的にみても合格率100%の大学が3校あり、いずれの大学も90%以上の合格率であったことから、前年度に比較し試験問題の難易度がやや下がっていたと思われる（表参照）。本学では、獣医師国家試験に向けて、学生自身による日獣大国家試験問題集の作成、学生相互によるグループ学習や6年後期の総合獣医学を通して国家試験対策を行っている。さらに、6年後期には学生からの要望に応じ、若手教員、大学院生および研究生の協力の下、土曜学校と称した実地試験対策授業も行っている。そして、総仕上げとして国家試験に準じた模擬試験（学生作成）1回と本試験（教員作成）2回を実施しているが、今回の結果が学生の油断につながらないよう教員も含め気を引き締めて対応していきたいと考えている。

区分	大学名	第69回		
		受験者数	合格者数	合格率
新卒者	北海道大学	38	37	97.4%
	帯広畜産大学	31	31	100.0%
	岩手大学	31	30	96.8%
	東京大学	31	29	93.5%
	東京農工大学	35	34	97.1%
	岐阜大学	33	33	100.0%
	鳥取大学	38	36	94.7%
	山口大学	26	26	100.0%
	宮崎大学	29	28	96.6%
	鹿児島大学	30	29	96.7%
	大阪府立大学	45	44	97.8%
	酪農学園大学	124	117	94.4%
	北里大学	125	121	96.8%
	日本獣医生命科学大学	93	92	98.9%
	日本大学	119	116	97.5%
	麻布大学	138	133	96.4%
	新卒者数計	966	936	96.9%
	既 卒 者	291	181	62.2%
	受験資格認定者	20	11	55.0%
	予備試験合格者	—	—	—
合 計		1,277	1,128	88.3%



平成30年度 入学式

学生課

平成30年4月4日（水）午前10時から「日本獣医生命科学大学入学式」がアリーナ（体育館）において、学校法人理事、日本医科大学関係者、同窓会役員、父母会役員など、多数の来賓を招き執り行われた。

獣医学専攻博士課程9名、獣医保健看護学



専攻博士前期課程7名、同後期課程1名、応用生命科学専攻博士前期課程13名、獣医学科91名、獣医保健看護学科101名、動物科学科100名、食品科学科90名の合計412名が入学した。

新入生紹介に始まり、阿久澤学長式辞、坂本理事長・中條同窓会長の祝辞を頂戴した後、同窓会及び父母会から記念品が贈呈された。引き続き武蔵野賞、櫻賞の授与式があり学歌斉唱後閉会した。

平成31年度 入学試験日程

平成30年度オープンキャンパス

入試区分		学科	試験日
推薦入学試験	一般公募推薦	獣医学科※ 獣医保健看護学科 動物科学科 食品科学科 ※獣医学科では指定校推薦を実施していません。	平成30年11月18日（日）
	指定校推薦		
特別選抜入学試験	社会人 帰国子女/IB取得者	獣医学科 獣医保健看護学科 動物科学科 食品科学科	平成30年11月18日（日）
	獣医師後継者育成／ 地域獣医療支援	獣医学科	平成30年11月18日（日）
	学士	獣医学科	【一次試験】 平成31年2月5日（火） 【二次試験】※一次合格者のみ 平成31年2月16日（土）
編入学試験	編入学試験（学士）	獣医保健看護学科 動物科学科 食品科学科	平成30年11月18日（日）
	編入学試験	獣医保健看護学科 食品科学科	平成30年11月18日（日）
センター試験利用入学試験	（第1回）※1	獣医学科 獣医保健看護学科 動物科学科 食品科学科	大学入試センター試験 平成31年1月19日（土）・20日（日）
	（第2回）※1	動物科学科 食品科学科	大学入試センター試験 平成31年1月19日（土）・20日（日）
一般入学試験	（第1回） センター試験併用方式 ※2	獣医学科 獣医保健看護学科 動物科学科 食品科学科	大学入試センター試験（数学・英語） 平成31年1月19日（土）・20日（日） 本学試験（理科） 平成31年2月5日（火）
	（第2回） 独自試験方式 ※3	獣医学科 獣医保健看護学科 動物科学科 食品科学科	平成31年2月6日（水）
	（第3回） 独自試験方式 ※3	獣医学科 獣医保健看護学科 動物科学科 食品科学科	平成31年3月4日（月）

担当学科	開催日時
獣医学科 獣医保健看護学科 動物科学科 食品科学科	平成30年8月18日（土） 10:30～16:00
	平成30年8月19日（日） 10:30～16:00
	平成30年10月7日（日） 10:30～16:00
動物科学科 食品科学科	平成30年11月3日（土）※ 10:30～16:00
獣医学科 獣医保健看護学科	平成30年11月4日（日）※ 10:30～16:00

※医獣祭と同時開催



平成31年度 入学試験・オープンキャンパス情報

入試課

※1 大学入試センター試験の成績のみで合格判定する方式の試験です。
※2 大学入試センター試験の成績と本学独自試験の成績の合計で合格判定する方式の試験です。
※3 本学独自試験の成績で合格判定する方式の試験です。

平成30年度入学者数

獣医学科	91 名
獣医保健看護学科	101 名
動物科学科	100 名
食品科学科	90 名
合計	382 名

平成30年度入試結果 教務・学生課

平成30年度入学試験の結果は表のとおりです。志願者数は3、592名（昨年度比92・1％）となった。

次に、一般入学試験の志願者数をみると、第1回の志願者数は1、726名（昨年度比93・2％）、第2回の志願者数は478名（昨年度比75・6％）で、いずれも昨年度から減少した。また、センター試験利用入学試験（第1回）の志願者数は1、169名で、昨年度と同数であった。

平成31年度入学試験では、一般入学試験の実施回数をこれまでの2回から3回に増やし、全日程において4学科での併願が可能になりました。

平成30年度試験区分別入学試験結果

平成30年度学科別地区別入学者数

学部・学科		試験区分	志願者数	受験者数	合格者数	倍 率		
獣医学部	獣医学科	[推薦]	一般公募推薦	81	77	18	4.3	
		[特別選抜]	社会人	4	4	0	0.0	
			帰国子女及びIB取得者	3	3	0	0.0	
			獣医師後継者育成及び地域獣医療支援	9	8	4	2.0	
			学士	12	12	1	12.0	
		センター試験利用（第一回）		601	578	30	19.3	
		一般（第一回）		982	849	117	7.3	
		一般（第二回）		311	267	21	12.7	
		合 計		2003	1798	191	—	
	獣医保健看護学科	[推薦]	一般公募推薦	43	43	26	1.7	
			指定校推薦	3	3	3	1.0	
		センター試験利用（第一回）		193	189	70	2.7	
		一般（第一回）		270	259	140	1.9	
		一般（第二回）		50	45	10	4.5	
		[編入学]	編入学	559	539	249	—	
		合 計		2562	2337	440	—	
		学部合計		20	19	17	1.1	
	応用生命科学部	動物科学科	[推薦]	一般公募推薦	8	8	8	1.0
				指定校推薦	222	220	127	1.7
			センター試験利用（第一回）		12	12	9	1.3
一般（第一回）			301	292	153	1.9		
一般（第二回）			78	66	37	1.8		
合 計			641	617	351	—		
食品科学科		[推薦]	一般公募推薦	12	12	12	1.0	
			指定校推薦	7	7	7	1.0	
		センター試験利用（第一回）		153	153	88	1.7	
		センター試験利用（第二回）		5	5	3	1.7	
		一般（第一回）		173	166	127	1.3	
		一般（第二回）		39	31	17	1.8	
		[編入学]	編入学	389	374	254	—	
		合 計		1030	991	605	—	
学部合計		3592	3328	1045	—			
総 合 計		3898	3649	986	—			

学部	学科	地区	入学者数	合計
獣医学部	獣医学科	北海道	3	91
		東北	0	
		関東甲信越	62	
		北陸	1	
		東海	6	
		近畿	6	
		中国	3	
		四国	1	
		九州・沖縄	8	
		その他	1	
	獣医保健看護学科	北海道	0	101
		東北	3	
		関東甲信越	82	
		北陸	1	
		東海	7	
		近畿	4	
応用生命科学部	動物科学科	中国	0	100
		四国	1	
		九州・沖縄	3	
		その他	0	
		北海道	1	
		東北	6	
		関東甲信越	79	
		北陸	0	
		東海	3	
		近畿	4	
	食品科学科	中国	2	90
		四国	2	
		九州・沖縄	2	
		その他	1	
		北海道	1	
		東北	0	
	食品科学科	関東甲信越	82	90
		北陸	1	
		東海	5	
		近畿	0	
		中国	0	
		四国	0	
		九州・沖縄	1	
		その他	0	



平成29年度 学位記授与式

学生課

平成30年3月8日（木）午前10時から、日本獣医生命科学大学「平成29年度学位記授与式」がアリーナ（体育館）において挙行された。授与式には、学校法人理事、日本医科大学関係者、母校名誉教授、同窓会役員、父母会役員、亜細亜大学学長など、多数の来賓を招き執り行われた。

大学院の学位記授与者については、大学院獣医学専攻博士課程修了者1名及び論文審査



合格者1名、獣医保健看護学専攻博士後期課程修了者1名及び論文審査合格者1名、同専攻博士前期課程修了者7名、応用生命科学専攻博士前期課程修了者4名の合計15名。学位の学位記授与者については、獣医学科93名、獣医保健看護学学科96名、動物科学科89名、食品科学科85名の合計363名に学位記が手渡された。引き続き阿久澤学長式辞、坂本理事長、中條同窓会長の祝辞を頂戴した後、学長賞、樗賞、獣医師会褒賞、同窓会長賞の授与があり、同窓会、父母会の記念品贈呈、卒業生代表挨拶のあと学歌斉唱後閉会となった。

学位取得者一覧

獣医学専攻博士課程

授与年月日	学位の種類	授与者氏名	研究指導分野
平成30年3月8日	博士（獣医学）	濱本 裕仁	獣医放射線学
平成30年2月22日	博士（獣医学）	皆川 智子	水族医学

獣医保健看護学専攻博士後期課程

授与年月日	学位の種類	授与者氏名	研究指導分野
平成30年3月8日	博士（獣医保健看護学）	生野 佐織	実践動物看護学

獣医保健看護学専攻博士前期課程

授与年月日	学位の種類	授与者氏名	研究指導分野
平成30年3月8日	修士（獣医保健看護学）	小竹 隼人	臨床獣医保健看護学
平成30年3月8日	修士（獣医保健看護学）	酒井 麻有	臨床獣医保健看護学
平成30年3月8日	修士（獣医保健看護学）	杉原 思穂	臨床獣医保健看護学
平成30年3月8日	修士（獣医保健看護学）	鈴木 好美	臨床獣医保健看護学
平成30年3月8日	修士（獣医保健看護学）	手塚 透吾	基礎獣医保健看護学
平成30年3月8日	修士（獣医保健看護学）	前田 采香	臨床獣医保健看護学
平成30年3月8日	修士（獣医保健看護学）	村木 未蘭	臨床獣医保健看護学

応用生命科学専攻博士前期課程

授与年月日	学位の種類	授与者氏名	研究指導分野
平成30年3月8日	修士（応用生命科学）	一鷹 愛李沙	バイオテクノロジー
平成30年3月8日	修士（応用生命科学）	君島 健太	動物システム経営学
平成30年3月8日	修士（応用生命科学）	長島 未希	動物生体防御学
平成30年3月8日	修士（応用生命科学）	細沼 亜里沙	食品安全学

学位取得者

大学院課



平成29年度学生表彰

学生課

学長賞、公益社団法人日本獣医師会褒賞、同窓会長賞は最終学年を対象として選出され、武蔵野賞は各学年から選出される。また、櫻賞は課外活動において優れた成果を収めた個人又は団体に贈られる。授与については、最終学年は学位記授与式にて表彰され、在学生は入学式にて表彰された。

学長賞

獣医学科	6年	藤原 万里子
獣医保健看護学科	4年	武井 和奏
動物科学科	4年	大木 妙子
食品科学科	4年	菅野 究

(社)日本獣医師会褒章

獣医学科	6年	池田 紘子
------	----	-------

同窓会長賞

獣医学科	6年	林 諒太郎
獣医保健看護学科	4年	後迫 かほり
動物科学科	4年	穂積 香瑠蘭
食品科学科	4年	明石 幸

武蔵野賞

獣医学科	2年	漆山 尚也
獣医学科	2年	佐藤 玲奈
獣医学科	2年	林 浩輝
獣医学科	3年	江藤 由佳
獣医学科	3年	河西 晴子
獣医学科	3年	佐々木 ねむ
獣医学科	4年	上玉利 成美
獣医学科	4年	高木 香奈
獣医学科	4年	木田 萌子
獣医学科	5年	柴 舞華
獣医学科	5年	島野 翔太郎

獣医学科	5年	宇賀神ひかる
獣医学科	6年	三木 香南
獣医学科	6年	山下 諒
獣医学科	6年	原田 祥太郎
獣医保健看護学科	2年	丸山 夢翔
獣医保健看護学科	2年	松本 朱莉
獣医保健看護学科	2年	関根 俊
獣医保健看護学科	3年	本橋 篤
獣医保健看護学科	3年	木村 理花
獣医保健看護学科	3年	赤堀 由起恵
獣医保健看護学科	4年	中井 涼子
獣医保健看護学科	4年	八尋 大河
獣医保健看護学科	4年	鈴木 智貴
獣医保健看護学科	2年	杉浦 麻世
動物科学科	2年	稲垣 朋伽
動物科学科	2年	寺田 えりか
動物科学科	3年	市川 みのり
動物科学科	3年	笹 詩絵里
動物科学科	3年	高田 莉緒
動物科学科	4年	樋口 香子
動物科学科	4年	甲斐 小百合
動物科学科	4年	柳泉 桃子
食品科学科	2年	根本 香穂
食品科学科	2年	高野 結花
食品科学科	2年	甲斐野 仁美
食品科学科	3年	真弓 佳奈子
食品科学科	3年	新井 紘平
食品科学科	3年	智田 遼
食品科学科	4年	横井 七奈
食品科学科	4年	松原 諄
食品科学科	4年	赤石 幸

獣医学科

獣医学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

獣医保健看護学科

平成29年度卒業生就職状況

学生支援課 課長

清水謙一

平成29年度の就職活動の特徴は、『解禁の前倒し』と『売り手市場』です。政府方針である6月1日採用活動開始は一部の業界を除いて名ばかりで、4月に入ると学生から内定報告を耳にし、5月にはピークを迎える『解禁の前倒し』状態でした。それだけ、企業採用側が良い学生を確保しようと『売り手市場』での労働者の確保に必死の様子でした。インターンシップの数も増え、本学学生も積極的に体験する姿が散見されました。そんな中、本学の学生は頑張つて立派な成績を残してくれました。学科別（3月末現在）の就職率では獣医学科100%、獣医保健看護学科100%、動物科学科98・6%、食品科学科98・7%と学部全体で就職希望者312名中310名（99・3%）が各々希望先に就職しました。学科別の内訳ですが、獣医学科では、本学最大の強みである「小動物獣医師」に56名（65%）が進み人気の高さを伺えました。また農林水産省を含む「公務員獣医師」に12名、NOSA I など「産業動物獣医師」に8名と分散傾向がありました。

獣医保健看護学科では、動物病院の「動物看護師」に32名（37%）とやはり就職先の柱となっています。その他、医薬品、食品製造業などのメーカー系に39名、農林水産省（動物検疫所）2名、地方公務員4名と公務員への就職が目立ちました。また大学院への進学者も多く本学、東京大学、京都大学などへ8

名が進学しました。

動物科学科では、従来から根強い人気の食品・医薬品製造業へ13名、新しい業界として生命科学の知識を生かせる衛生検査・治験（CRO）業界へ13名が就職し人気を二分しました。顕著なところでは話題のすみだ水族館に就職できた学生もいました。また大学院への進学者がここ数年多く12名が本学を初め国立大学の大学院へ進学しました。

食品科学科では伊藤ハム、プリマハム、ブルボン等人気の食品メーカーが36名（45%）を占め、商社卸、外食産業を含めると食品製造、流通関係で49名が就職しました。学科の強みが活かしている就職活動の結果が現れています。また本学を始め国立大学大学院に6名が進学しました。

平成29年度はキャリア支援センターの仕組みが整い、就職環境にも恵まれ、就職学生にとって有利な就職戦線でしたが、引続き「キャリア形成の質保証」を追及し、キャリア支援委員会と連携し優良な出口作りを目指して参ります。



日本獣医生命科学大学の

現状そして未来

日本獣医生命科学大学

学長 阿久澤 良 造



同窓生の皆さまに於かれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての準備が着々と東京を中心に進んでおります。また2019年にはラグビーワールドカップが日本開催となり、メディアで取り上げられることも多くなってきました。本年は、サッカーワールドカップがロシアで開催されています。世界で、鍛錬された技の最高峰を目の当たりできる機会に溢れています。若者たちが、目標に向かって果敢に取り組む姿には感動を覚えます。

他方、日本を取り巻く社会情勢に目を向けると、不安材料に溢れて、解答の出にくい混沌の中にあるように思われ、未来にむけての展望が見えにくくなっています。国内政治においても胸を張れるような政策にも乏しく、身のない論議ばかりに終始している状態であることは、世界情勢に敏感にならねばなら

い時期であるだけに残念でなりません。18才で有権者となる学生達には、自分たちの未来を決定できる権利があり、国際社会、国内政治に関心を持ってほしいと願っています。無関心からは何も生まれず、考えること、話すことを面倒だという空気が、知らず知らずのうちに大きな渦に飲み込まれてしまうのではないかと危惧しています。これからの未来を生きていく学生たちは、自己決定の力をしっかりと身に付ける必要があります。大学という自由な環境のなかで、主語（自分）のある話ができるようにコミュニケーション力を専門知識とともに積み上げていくことを期待しています。

今、大学内に視点を向けますと、キャンパスにはポジティブでエネルギーな空気が流れています。新年度が始まる時期は、受験という大きなハードルを越えた新入学生が、意気揚々と闊歩し、また学年の上がつた学生達もそれぞれの達成したい目標を見つけ、一歩を踏み出しています。友人たちと将来の希望や夢を語り、目標に向かっている眩しいくらいの学生の表情を見ますと、我々教職員一同は、新年度を迎える度に、フレッシュな感覚を忘れないようにしなければと気を引き締めております。

さて、大学における新年度は、大きく変わってのスタートでした。昨年度まで1次限90分間だった講義時間が100分間に延長となり、学生は、集中の維持が大変ですが、教員は授業形態を工夫し、学生との双方向形式の講義が少しずつ増え、学生、教員間に互いの意識変化が始めています。また、法人においてのICTの推進は、大学ガバナンスの充

実・強化のみならず、学生サービス充実など授業運営の効率化、実効性推進に大きな力となつていきます。教員が、ICTを利用した教育改善や学習支援に取り組み、徐々に成果をあげております。

学部、学科はそれぞれポリシーを有し、運営しています。アドミツションポリシーに沿った新入生を選抜、カリキュラムポリシーに沿ったカリキュラムによって授業を積み重ね、ディプロマポリシーとして学位授与への方針を設定しています。今年度はこれらポリシーを改正し、実質化、具体的なものへと進化しております。この3つのポリシーは社会背景の変化とともに変わりますが、いつの時代もポリシーは大学の理念、建学の精神に基づいて設定されるものです。学是「敬讓相和」・到達目標「愛と科学の聖業を培う」を掲げ「謙譲と協調、慈愛と人倫を育む科学者の創成」を建学の精神としています。生命に関わる分野をそれぞれの学部で担っており、明確な目的を持って、向き合い続けることが使命であり、真摯に取り組んでいかねばなりません。今年も3月に376名の学生が卒業、修了いたしました。その学生を対象にしたアンケート調査を実施し、学是、教育方針に関する設問に対し、「ある程度身についた」を含めると80%の卒業生が「身につけた」と回答しました。本学の学是、教育理念とともに社会に巣立っていきましました。同窓生の皆様の中での年を重ねるごとに、各々の立場において熟成されていることと確信しております。

また、同窓会誌の新年号にも紹介いたしました。未来に向けて創立150周年（2031年）までの15年間の道程を「ニチジウ

ミライ図」と名付けた中長期計画を策定いたしました。「様々なものをつなぐ拠点となり、未来をつくる」ことを意味する「Connect with the Future」をミッションとして掲げています。中長期計画は、今後の改革の力となり、教育研究機関として健全に発展し続けるためのロードマップになります。多くのモノやヒトをつなぐ重点施策を実効性のある取り組みによって進めていかなければなりません。本学のビジョン達成に向けての取り組みの柱となる項目は、「教育」「研究」「学生キャリア支援」「管理運営」「社会貢献・産学連携」「動物医療センター」の6つです。本学が様々なものとのを「つなぐ」拠点となるミライに向け、6つの柱の中に設定したアクションは、年次計画としてそれぞれの目標に向かって着実に積み上げるべく管理シート上で、その目標、経過を皆が共有しながら実施にあたります。

少子化による社会構成状況が変化し、海外からの就労者が増え、日本で暮らす外国人が当たり前になり、多様なカルチャーが日本のなかに混在する時は、すぐそこまで来ています。本学においても「多様性を理解し、個を磨く大学」の実現を目指し、中長期計画に則り、いろいろな角度から検証しつつ、一つひとつ着実に成果を出し、確実に前進できるように、力を尽くしたいと思っております。

今後とも、同窓生の皆さまには、お力添えを頂き、本学の学生の未来を応援していただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆さまのこれから益々のご活躍を心より祈念申し上げます。